

自己点検書

(2 . 自己点検結果編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）
適用年度：2016年度

芝浦工業大学 工学部

電子工学科

(エンジニアリング系学士課程)
(電気電子及び関連の工学分野)

Electronic Engineering

審査分類：中間審査

提出日 2016年 10月 22日 (JABEE中間審査自己点検書の空欄部に、内容を追加した。)

記入上の注意

- ・白色のセルにのみ記入してください。着色及び網かけのあるセルには記入しないでください。
- ・「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。
自己判定の指標は下記のとおりです。
 - ◎：認定基準の要求事項を満たし、さらにそれを上回る取り組みを行っている
 - ：認定基準の要求事項を満たしている
 - △：認定基準の要求事項を概ね満たしているが、改善の余地がある
- ・「基準への適合状況の説明」欄に説明を簡潔に記入してください（多くても200文字程度を目安）。
- ・「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください（多くても200文字程度を目安）。なお、新規審査の場合は記入不要です。
 - (1) 前回受審時の「W：弱点」に対する対応
 - (2) 前回受審時の「[C]：懸念」に対する対応
 - (3) その他の前回受審時からの改善、変更
- ・「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と整理番号又はWebページのURLを記入してください。
添付資料、実地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
なお、整理番号は、添付資料と実地審査閲覧資料が区別できるよう付してください（例：TxxとJxx）。
この欄に記載した資料に対応させて、添付資料編の表5及び表6の一覧表を作成してください。
Webページで公開されているものについてはURLを記入してください。その場合でも、負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	基準1 学習・教育到達目標の設定と公開				
1(1)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員および学生に周知されていること。				
1(1)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？	○	学修の手引に技術者像を示している。2012年9月に定めたが、卒業数年後のあるべき姿として当初より念頭にあったものを明文化した。JABEE基準の変更に伴い、本プログラムで育成しようとする技術者像を定めた。		学修の手引 電子工学科（2013年度以降、§2電子工学科で育成しようとする技術者像） 技術者像打合せ資料及び議事録 学科会議事録（2012年度第5回、第6回）
1(1)[2]	上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？	○	1959年に学科設立以来、本学の建学の精神である「社会に学び、社会に貢献する技術者を育てる実学教育」を踏まえ、電子工学を中心とした教育を行っている。これまで、製造業を中心に幅広い分野に多数の人材を輩出してきた。修了生が今後も継続的に幅広い分野で活躍することを想定した技術者像としている。		芝浦工業大学の歩み1927～2011（p.115学校法人 芝浦工業大学《沿革年表》） 学修の手引（工学部の教育課程、1.工学部の教育方針） 2009～2015年度電子工学科卒業生進路先一覧 学修の手引 電子工学科（2013年度以降、§2電子工学科で育成しようとする技術者像）
1(1)[3]	上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？	○	1年生の学科アンケートでは、専門知識を身につけ社会で活躍したいとの要望が多かった。4年生では、広い専門知識の修得についての満足度が高かった。企業対象アンケートでは、在学中には電子工学の基礎的内容を身につけて欲しい、が半分以上あった。これらにも配慮し、電子工学を基礎に工学系分野全般で活躍できよう技術者像とした。		1年生学科アンケート（5.あなたが大学の勉強で最も修得していききたいと考えていることは何ですか？） 4年生学科アンケート(2-4(3) 専門知識を学ぶ上で、専門科目の講義は役立ちましたか、ご回答ください。) 企業対象アンケート
1(1)[4]	上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？	○	学科ホームページに技術者像を示し、学内および学外に公開している。また、技術者像を記載した学修の手引は新入生・全教員に配布されるだけでなく、電気電子学群事務室、学生課、非常勤講師室にも配布されている。		電子工学科ホームページ 技術者像 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/tokusyoku.html 学修の手引 電子工学科（2013年度以降、§2電子工学科で育成しようとする技術者像）
1(1)[5]	上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	○	本学科教員（非常勤を含む）、共通学群教員には学科ホームページでの公開、及び学修の手引の配布により周知している。2013年度以降入学生には、新入生ガイダンスにてJABEE説明会を実施し、説明会資料と学修の手引を配布の上で技術者像の説明を行っている。全専任教員（新人も含む）が出席し、これらへの周知も兼ねる。また2012年度以前入学のプログラム履修生にも学科ガイダンスにて資料を配布の上で説明を行った。		電子工学科ホームページ 技術者像 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/tokusyoku.html JABEE説明会実施記録 JABEE説明会資料（2013年度以降） JABEE説明会 改訂資料 2010, 2011, 2012年度入学生対象（p.4 電子工学科で育成しようとする技術者像）
1(2)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていますか？		技術者像は2012年9月に定めたが、学習・教育到達目標設定時に卒業数年後のあるべき姿として当初より念頭にあったものを明文化したものである。技術者像、育成する学生像、ディプロマポリシー、学習・教育到達目標の間の対応は対応表のように設定している。育成する学生像を明文化し、ディプロマポリシーは2012年度に変更を行い、より実質化を図った。 2014年度のJABEE受審での指摘事項(複数の目標を持つ科目で、単位取得でどの程度の目標達成になるか)の改善のため、学習・教育到達目標と科目の目標の一部変更を準備している。スーパーグローバル大学創成支援の活動にも考慮し、より具体的な目標とする予定である。		技術者像、育成する学生像、ディプロマポリシー、学習・教育到達目標間の対応表 ループリック作成ミーティング議事録
1(2)[2]	学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものですか？				
1(2)[2](a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養	○	2016年度より学習・教育到達目標を変更した。その内容を1(2)[2]に記す。学習・教育到達目標Aの知識・能力の育成により達成する。卒業生が専門分野のみならず一般的な工学系分野で活躍できることを念頭に置き、専門分野の基礎的素養と共に幅広い視点から物事を考える素養を得ることを目的としている。具体的には、人間文化および社会、自然科学に関する知識について、共通系教養科目を中心とした科目で学び、テスト等により適切に行動する能力を評価する。		自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3
1(2)[2](b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解	○	学習・教育到達目標Bの知識・能力の育成により達成する。卒業生が工学系技術者として、また、所属する組織だけでなく地域の一員として今後社会と関わることを想定し、技術が公共の福祉に与える影響、環境に与える影響や持続可能な社会への取り組み、技術者が持つべき倫理に関する素養を得ることを目的としている。具体的には、技術者倫理に関する必修2科目を学び、テスト等により適切に行動する能力を評価する。		自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3
1(2)[2](c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力	○	学習・教育到達目標Cの知識・能力の育成により達成する。卒業生が専門分野の技術者として、また工学系技術者として、課題を解決していくのに必要な自然科学と情報技術を学び、使いこなす能力の習得を目的としている。具体的には、数学、物理、化学科目を中心とした数理基礎科目や数理専門基礎科目、言語・情報系科目の必修および選択必修科目を学び、テスト等により現象を論理的に考えて理解する能力を確認する。また、専門科目の電気数学1・2について、電子工学の基礎となる数学を学び、テスト等により現象を論理的に考えて理解する能力を評価する。		自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3
1(2)[2](d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力	○	学習・教育到達目標Dの知識・能力の育成により達成する。卒業生が専門分野の技術者として、課題を解決していくのに必要な専門知識を学び、使いこなす能力の習得を目的としている。電子工学の専門基礎と、二つの専門分野を体系的に習得する。具体的には、電気・電子回路と電子物性に関する基礎科目及び発展的専門科目を学び、テスト・レポート等により専門的知識、知識を組み合わせた应用能力、ハードウェアとソフトウェアを利用する能力を評価する。		自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3
1(2)[2](e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	○	学習・教育到達目標Eの知識・能力の育成により達成する。卒業生が専門分野の技術者として、また工学系技術者として、社会の要求を解決していくためのデザイン能力の習得を目的としている。具体的には、実習・実験科目、インターンシップ科目では電子工学の知識を使って解決するPBL課題について、制約条件の中、時間内で計画的に解決する能力を身につけさせ、作品、レポート・プレゼンテーション等により、能力を確認する。卒業研究では、研究課題と別に設定したデザイン課題を与え、制約条件の中、時間内で計画的に解決する能力を身につけさせ、日常の報告(各指導教員評価)により、能力を評価する。		自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[2](f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	○	学習・教育到達目標Fの知識・能力の育成により達成する。卒業生が工学系技術者として必要となる、日本語による論理的な適切な情報を含む文章の作成および情報伝達能力の習得を目的としている。実験科目では論理的な実験報告文章の作成と口頭による質疑応答能力を身につけさせ、実験レポート、レポート指導時の質疑応答、プレゼンテーションの質疑応答により、能力を評価する。卒業研究では、日常の報告（各指導教員評価）、中間発表、卒論、卒論発表（審査）により、専門分野の説明能力と質疑応答能力を評価する。		自己点検書（3.添付資料編）表2、表3
1(2)[2](g)	自主的、継続的に学習する能力	○	学習・教育到達目標Gが主体的知識・能力の育成により達成する。卒業生が工学系技術者として技術変革に対応し将来的に長く活躍するために、計画的・自主的な継続的研鑽の理解を目的とする。具体的には、電子工学一般は、与えられた学習の姿勢や方法を身につける課題についてグループ内で討論すること、また電子工学に関係した実習課題を体験・解決することで能力を身につけさせ、グループ内での活動・発表およびレポートにより、能力を確認する。電子工学ゼミナールでは卒業研究テーマに関連した専門性の高い課題を与え、レポートおよびプレゼンテーションの質疑応答により、能力を評価する。		自己点検書（3.添付資料編）表2、表3
1(2)[2](h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	○	学習・教育到達目標E,Fの知識・能力の育成により達成する。卒業生が工学系技術者として技術変革に対応し将来的に長く活躍するために、不十分な環境下でも要求を解決する能力の習得を目的としている。具体的には、実習・実験科目では、実験課題やPBL課題を与え、期限内に計画的に解決することで能力を身につけさせ、作品、レポートおよびプレゼンテーションの質疑応答により、能力を評価する。卒業研究では、より実践的な課題を通し、期限内に計画的に解決することで能力を身につけさせ、日常の報告（各指導教員評価）、中間発表、卒論、卒論発表（審査）により、能力を評価する。		自己点検書（3.添付資料編）表2、表3
1(2)[2](i)	チームで仕事をするための能力	○	学習・教育到達目標Hの知識・能力の育成により達成する。卒業生が所属機関の一員として協調性を持って仕事を進めるために、他者と協働する際に自らの取るべき行動を判断する能力と、相手にも協働させる能力の習得を目的としている。具体的には、実習・実験科目では、課題を与えまたは課題を設定させ、グループ単位で課題に取り組み、限られた時間・期間内に行わせることで、役割分担と共に互いに協働して計画的に解決する能力を身につけさせる。レポートおよびプレゼンテーションの質疑応答により、能力を評価する。		自己点検書（3.添付資料編）表2、表3
1(2)[3]	学習・教育到達目標は、水準も含めて設定されていますか？	○	水準の具体性がより明確になるように、2013～2015年度では具体的水準も示した。2016年度より、身につけるべき事項と能力の具体性を高めた学習・教育到達目標とした。これにより、水準の具体的説明が不要となり、明確なものになった。		学修の手引 電子工学科（2013年度以降、§3電子工学科の教育目標） JABEE説明会 改訂資料 2010、2011、2012年度入学生対象（p.6電子工学科の学習・教育到達目標と具体的水準） 自己点検書（3.添付資料編）表2、表3 学協会議事録（2012年度第10回、2. JABEE プログラムにおける学習教育目標と水準設定について）
1(2)[4]	学習・教育到達目標は、広く学内外に公開されていますか？	○	学科ホームページに学習・教育到達目標を示し、学内および学外に公開している。また、学習・教育到達目標を記載した学修の手引は全教員に配布されるだけでなく、電気電子学群事務室、学生課、非常勤講師室にも配布されている。さらに、シラバスには対応する学習・教育到達目標が示されている。なお、学科で作成しているテキスト類（電子工学基礎実験、電子工学コース実験1・2）には、各科目の学習・教育到達目標を掲載し、ガイダンスなどで履修者への周知を行っている。		電子工学科ホームページ 教育目標 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/tokusyoku.html 主要講義科目のシラバス（学習・教育到達目標との対応） ※他の科目のシラバスはシラバス検索システムから検索できる http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
1(2)[5]	学習・教育到達目標は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	○	本学科教員（非常勤を含む）、共通学群教員には学科ホームページでの公開、及び学修の手引の配布により周知している。2013年度以降入学生には、新入生ガイダンスにてJABEE説明会を実施し、資料と学修の手引を配付の上で学習・教育到達目標の説明を行っている。全専任教員（新人も含む）が出席し、これらへの周知も兼ねる。また2012年度以前入学のプログラム履修生にも学科ガイダンスにて資料を配布の上で説明を行った。		電子工学科ホームページ 教育目標 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/tokusyoku.html JABEE説明会の実施記録 JABEE説明会資料（2013年度以降）JABEE説明会 改訂資料 2010、2011、2012年度入学生対象（p.6電子工学科の学習・教育到達目標と具体的水準） JABEE説明会 改訂資料 改訂版
2	基準 2 教育手段				
2.1	2.1 教育課程の設計				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.1(1)	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程(カリキュラム)が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと。				
2.1(1)[1]	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程(カリキュラム)が設計されていますか？	○	表4及び学修の手引にカリキュラムと学習・教育到達目標との対応を示す。学習・教育到達目標に資する科目を知識や専門の積み上げと関係付け、4年間で目標を達成することができるように設計した。具体的には、広範囲におよぶ電子工学に関連する領域のなかで“物性デバイス分野”と“知能情報回路分野”を柱としたカリキュラムであり、基礎学力を積み上げて目標を達成する。		自己点検書(3.添付資料編)表4 学修の手引 電子工学科(2011年度以降、学習・教育(到達)目標を達成するために必要な授業科目の流れ)
2.1(1)[2]	カリキュラムが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	○	本学科教員(非常勤を含む)、共通学群教員、学生には学科ホームページ、及び毎年度発行・配布される学修の手引にカリキュラムおよび学習・教育到達目標との対応が開示される。2013年度以降入学生には新入生ガイダンスにてJABEE説明会を実施し、資料と学修の手引を配付の上で説明を行っている。全専任教員(新人も含む)が出席し、これらへの周知も兼ねる。また新基準対応について、2012年度以前入学のプログラム履修生にも、学科ガイダンスにて資料を配布の上で説明を行った。		電子工学科ホームページ 教育目標 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/tokusyoku.html JABEE説明会の実施記録 JABEE説明会資料(2013年度以降) JABEE説明会 改訂資料 2010、2011、2012年度入学生対象 (p.6電子工学科の学習・教育到達目標と具体的水準) JABEE説明会 改訂資料 改訂版*
2.1(1)[3]	カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていますか？	○	各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係を表4に示している。表4は学科HP、学修の手引、配付したJABEE説明会資料に掲載している。2014年度のJABEE受審での指摘事項(複数の目標を持つ科目で、単位取得でどの程度の目標達成になるか)の改善のため、2016年度では基本的に1科目1目標、多くとも1科目2目標とし、わかりやすい対応関係とした。また、GPBL活動単位化のために科目を新設した。		自己点検書(3.添付資料編)表4 電子工学科ホームページ 教育目標 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/tokusyoku.html 学修の手引 電子工学科(2011年度以降) JABEE説明会実施記録 JABEE説明会資料(2010年度、p.6 電子工学プログラムの学習・教育到達目標) JABEE説明会 改訂資料 2010、2011、2012年度入学生対象 (p.6電子工学科の学習・教育到達目標と具体的水準)
2.1(1)[4]	標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たしていますか？	○	標準修了年限は学修の手引に示す通り満たしている。また、全授業時間に対する当該分野にふさわしい数学、自然科学及び科学技術に関する授業時間の割合は76～77%であり、基準2.1(1)「全体の60%以上」を満たす。		学修の手引 7.学修(1)学種とは) 全授業時間に対する当該分野にふさわしい数学、自然科学及び科学技術に関する内容の割合
2.1(2)	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書(シラバス)が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。				
2.1(2)[1]	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書(シラバス)が作成されていますか？	○	学修の手引(電子工学科、2011年度以降)及び電子工学科HPに記載のカリキュラムの設計に基づき、知識の積み上げが行われるよう配慮した。シラバスには「履修登録前の準備」に前提知識や科目を記載し、また対応する学習・教育到達目標を示している。なお、全てのシラバスは大学公式HPの検索システムから検索・確認することができる。		学修の手引 電子工学科(2011年度以降) 電子工学科ホームページ カリキュラムフロー http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/curriculum.html 主要講義科目のシラバス 芝浦工業大学 シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.1(2)[2]	シラバスが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	○	シラバスは大学公式HPシラバス検索システムや、学生ポータルサイト(S☆gsot)において開示されている。学生および教員共に、自由にシラバスを閲覧することができる。		芝浦工業大学シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 芝浦工業大学 学生ポータルサイト S☆gsot(ガソット) (学内のみアクセス可) http://sgsot.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.1(2)[3]	シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていますか？	○	シラバスに授業の概要(位置付けを考慮)、達成目標、授業計画(予復習を含む授業時間外課題)、評価方法と基準、履修登録前の準備(位置付けを考慮)、学習・教育到達目標との対応が示されている。複数教員担当科目ではガイダンスでさらに説明したり、卒業研究では詳細を記載した記録ノートを配布している。		主要講義科目のシラバス 複数教員担当科目のシラバス ※他の科目のシラバスはシラバス検索システムから検索できる http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 複数教員担当科目のガイダンス資料 卒業研究記録ノート
2.1(2)[4]	シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていますか？	○	授業時間について、学修の手引において、1コマを90分授業とし、第1-7時限まで実施されていることが示されている。また、時間割検索システムでも示されている。通常の授業進行と異なる卒業研究については、シラバスに授業時間が示されている。		学修の手引 8.単位と授業(4)授業時間 芝浦工業大学 時間割検索システム http://timetable.sic.shibaura-it.ac.jp/ 複数教員担当科目のシラバス(卒業研究)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.2	2.2 学習・教育の実施				
2.2(1)	シラバスに基づいて教育が行われていること。				
2.2(1)[1]	シラバスに基づいて教育が行われていますか？	○	シラバス【T01】【T02】に記載した15回分の授業計画に基づき授業を行い、授業記録【T04・J01】を提出することで確認している。さらに学生による授業アンケート【T05・J02】でもチェックを受けている。休講等により授業実施回数が不足する場合には、学生課から担当教員に対して補講実施の要請がなされる。卒業研究について、卒業研究記録ノートにより実際の授業時間を確認している【J03】。	【前回審査の指摘】 共通工学系教養科目「塗料・塗装工学概論」のシラバスが確認できなかった。 【改善】 事務側から担当教員にシラバス入力を依頼し、入力を確認した。また、全科目の入力を確認した。	【T01】 主要講義科目のシラバス（授業計画） 【T02】 複数教員担当科目のシラバス（授業計画） ※他の科目のシラバスは【T03】から検索できる。 【T03】 芝浦工業大学 シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 【T04・J01】 授業記録 【T05・J02】 授業アンケート結果 【J03】 卒業研究記録ノート
2.2(2)	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。				
2.2(2)[1]	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていますか？		シラバスに記載した15回分の授業計画に基づき授業を行い、学科専門科目では授業記録を提出することで確認している。さらに学生による授業アンケートでもチェックを受けている。休講等により授業実施回数が不足する場合には、学生課から担当教員に対して補講実施の要請がなされる。卒業研究について、卒業研究記録ノートにより実際の授業時間を確認している。		主要講義科目のシラバス（授業計画） 複数教員担当科目のシラバス（授業計画） ※他の科目のシラバスはシラバス検索システムから検索できる http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 授業記録 授業アンケート結果 卒業研究記録ノート
2.2(3)	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。				
2.2(3)[1]	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させていますか？	△	学生ポータルサイトS☆gsot【T06】において、成績通知書【T07・J04】で単位取得状況を確認し、及びJABEE達成表・確認表【T08・J05】で達成度を確認する。本学科では、単位数による進級・卒業に必要な条件が設定されており【T09・J06】、半年毎に成績通知書で単位取得状況を確認すると共に、達成表・確認表で各目標の達成状況、達成に必要な科目を確認し、履修計画に役立てる仕組みになっている。	【前回審査の指摘】 JABEE達成表に達成度を点検するシステムがあることを確認したが、面談で使用方法、目標達成に向けて履修計画への反映方法等の説明が十分に行われていなかった。 【改善】 審査当時、JABEE達成表の内容が正しくなかった。旧基準の時間数ベースで表示されており、必要科目で達成する実態と合っていない。旧基準では目標時間数を達成していない場合もあり、履修計画への反映等利用を進めることはできなかった。学生自己開発認識システムについて、当初の仕様と異なり、システム上の問題で学生は入力年度しか見ることができず、自分の振り返りができなかった。 これらについて次のように改善を図った。2015年11月より、2015年度以前の入学生に対し、正しい達成表が表示されるようになった。通常の成績通知書および目標達成に必要な科目をまとめた確認表と合わせて、履修状況と達成状況を確認することができるようになった。2016年度入学生の達成表について、2016年6月現在、準備中である。なお、学生自己開発認識システムは学科側の改善要望が反映されないこと、また審査側に達成状況の点検のエビデンスとして受け入れられなかったことより、2015年度より使用を取りやめた。	【T06】 芝浦工業大学 学生ポータルサイト S☆gsot (ガソット) (学内のみアクセス可) http://sgsot.sic.shibaura-it.ac.jp/ 【T07・J04】 成績通知書 (S☆gsot (ガソット) 上) ※【T07】は S☆gsot (ガソット) 上の画面、【J04】は全員分の成績通知書 【T08・J05】 JABEE達成表、確認表 (S☆gsot (ガソット) 上) ※【T08】は S☆gsot (ガソット) 上の画面、【J05】は確認表と全員分の達成表 【T09・J06】 学修の手引 (3. 卒業に必要な条件、4. 卒業研究に着手する条件、5. 進級停止条件)
2.2(3)[2]	自分自身の達成状況を継続的な点検を学習に反映させていますか？	△	進級・卒業に必要な条件は自身の卒業に関わる重要な条件であり、半年毎の単位取得状況とJABEE達成状況を継続的に自己点検している。ガソット上では成績通知書、JABEE達成表・確認表をまとめて見ることができるようになっており、単位取得状況が把握しやすいだけでなく、今後の履修計画が立てやすく、継続的な自己点検をサポートする。なお、成績不振者に対しては、クラス担任が面談・学習指導【T10・J07】【T11・J08】を行う仕組みになっている【T12・J09】。	【改善】 S☆gsot上のJABEE確認表に、卒業に必要な科目、即ち達成に必要な科目名または科目群名が記されている。達成表に記載の各目標に対する単位取得状況と照らし合わせることで、達成度が確認できると共に、今後履修すべき科目（何を履修すれば卒業できるか）がわかるようになっており、継続的な点検を学習に反映できるような仕組みとなっている。2016年度入学生の達成表について、2016年6月現在、準備中である。	【T10・J07】 基礎科目成績不振者面談報告書 【T11・J08】 警告対象者面談報告書 【T12・J09】 学修指導の手引
2.3	2.3 教育組織				
2.3(1)	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること？				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(1)[1]	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していますか？	○	電子工学科の専門分野を、①物性デバイス系、②知能情報回路系の二つに分け、それぞれ、現在5名、7名の合計12名の博士号を有する専任教員で構成している。専任教員のうち4名が企業経験者であり、実務経験を通じた先端技術開発への対応能力も有している。カリキュラム運営には十分な教員数である。また、教育支援のために全学レベルでクラス担任制度及び学科レベルで全教員担当対応（学生教育支援担当）制度がある。		教員データベース(所属の工学部より電子工学科を選択) http://resea.shibaura-it.ac.jp/ 学修指導の手引(3.クラス担任の役割) 2011年度第13回学科会議資料1(新入生の全教員担当対応について) 2012年度第14回学科会議資料5(教育支援担当教員について) 2014年度第3回学科会議資料(支援担当教員制度について)
2.3(2)	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。				
2.3(2)[1]	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がありますか？	○	学科内委員会として、カリキュラム内容を点検・検討するカリキュラム検討委員会、実験系科目の内容を点検・検討する実験実習および施設・設備検討委員会が設置されている【T13】。検討結果について、学科構成員全員が参加する学科会議で審議し、実施する。工学部レベルでは、カリキュラムや時間割の検討を行う工学部教務委員会が設置され、共通学群教員とも連携している【T14】。また、共通学群教員との交流として、定期的に開催される共通学群科目とのミーティング・懇談会に、参加が呼び掛けられるようになっている【T15】。	[前回審査の指摘] プログラムに関わる学科外教員(共通学群教員)との連携に懸念がある。 [改善] 学科外教員(共通学群教員)との連携について、以前より工学部教務委員会でカリキュラムや授業時間のすり合わせを行っており、これを記した。また、定期的に開催される共通学群科目のミーティング・懇談会に参加が呼び掛けられるようになり、実際に参加している。	【T13】 主任、総務、クラス担任、カリキュラム担当、JABEE委員、実験担当リスト(実験実習および施設・設備検討委員会委員は、主任、実験担当、機器管理者としている) 【T14】 芝浦工業大学工学部教授会委員会規定(教務委員会)、2014年度および2015年度教務委員会委員 【T15】 共通学群科目ミーティング・懇談会の案内
2.3(2)[2]	上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われていますか？	○	月毎に学科会議、定期的または必要に応じてカリキュラム検討委員会及び実験実習および施設・設備検討委員会を実施している【T16】【T17】【T18】。また月毎の工学部教務委員会では、共通学群教員を含めカリキュラムや時間割の検討を行っている【T19】。また、共通学群科目のミーティング・懇談会に本プログラム教員が参加している【T20】。	2.3(2)[1]と同じ	【T16】 電子工学 学科会議の日程について(2014~2015年度) 【T17】 カリキュラム検討委員会議事録 【T18】 実験・実習および施設・設備検討委員会議事録 【T19】 工学部教務委員会議事録 【T20】 共通学群科目ミーティング・懇談会議事録
2.3(3)	教員の質的向上を図る取り組み(ファカルティ・ディベロップメント)を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに基づいた活動が行われていること。				
2.3(3)[1]	教員の質的向上を図る取り組み(ファカルティ・ディベロップメント)を推進する仕組みがありますか？	○	学内外の優れた教育改善の取り組みの共有化と自らの教育改善に活かすことを目的に、大学全体のFD・SD改革推進委員会、2013年度より教育イノベーション推進センター・FD・SD推進部門が設置されている。また、工学部では、2003年4月より、工学教育プログラム及び教育システムの検証、評価、開発、企画・運営、FD活動を行う教育開発本部が設置されている。		教育イノベーション推進センターNEWSLETTER 01 芝浦工業大学ホームページ 芝浦工業大学工学部教育開発本部 http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/educational_system_dev/index.html?transfer=1
2.3(3)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	○	教育イノベーション推進センターについて、ニュースレター、HPにより、活動概要と組織を開示している。教育開発本部について、本学HPにてその業務と活動内容が示されている。また、教育開発本部部門員には各学科から1名が参加している。		教育イノベーション推進センター NEWSLETTER 01 芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター http://www.shibaura-it.ac.jp/about/educational_innovation_center.html 芝浦工業大学ホームページ 芝浦工業大学工学部教育開発本部 http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/educational_system_dev/index.html?transfer=1
2.3(3)[3]	上記の仕組みに基づいた活動が行われていますか？	○	全学で定期的にFD講演会を実施し、多数の専任教員・非常勤講師が出席している。また、授業外学習を促すシラバスの書き方WS、ティーチングポートフォリオ作成WSなどにも参加し、教育力向上を図っている。教育開発本部では、教員に対して授業改善を促す活動を行っている。		全学FD・SD講演会開催記録 教育イノベーション推進センター NEWSLETTER 01 教育イノベーション推進センター NEWSLETTER 02 第1104回教育開発本部研究開発部門会議記録 教育開発本部研究開発部門会議記録 シラバスアンケート集計
2.3(4)	教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに基づいて教育改善に資する活動が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(4)[1]	教員の教育活動を評価する仕組みがありますか？	○	評価規程に基づき、2010年4月より、大学全体で専任教員の、①教育活動、②研究活動、③大学運営（社会貢献含む）について、教員の自己点検評価を行っている。自己点検・改善を基本としているが、学部長及び研究科長が総覧しており、必要に応じて助言を行う。また、担当授業運営や教育改善活動において優秀な実績を挙げた教員を顕彰する優秀教育教員顕彰制度がある。		芝浦工業大学教員教育・研究等業績評価規程 芝浦工業大学優秀教育教員顕彰規程
2.3(4)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	○	教育・研究等業績評価規程が開示され、本学HPで教育・研究等業績評価の概要と規程が公開されている。また、優秀教育教員顕彰制度の規程が開示され、本学HPで制度の概要が公開されている。		芝浦工業大学教員教育・研究等業績評価規程 芝浦工業大学ホームページ 評価に関して - 教育・研究等業績評価 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/achievements.html 芝浦工業大学優秀教育教員顕彰規程 芝浦工業大学ホームページ FDの取り組み - 優秀教育教員顕彰制度 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/fd_prize.html
2.3(4)[3]	上記の仕組みに従って教育改善に資する活動が行われていますか？	○	毎年度全教員に対して、目標設定及び自己評価の入力の依頼がある。評価シートに記入・自己点検を行い教育改善に役立っている。また、本学HPに示すように、毎年度、教育改善活動において優秀な実績を挙げた優秀教育教員の表彰を行っている。受賞者はプレゼンテーションを行い、教員相互の教育改善に役立っている。		教育・研究等実績評価の実施ならびに情報公表について 及び 教育・研究等業績評価の自己評価の入力について 芝浦工業大学ホームページ FDの取り組み - 優秀教育教員顕彰制度 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/fd_prize.html
2.4	2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法				
2.4(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって選抜が行われていること。				
2.4(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められていますか？	○	本学HPおよび学科HP上でアドミッションポリシーを公開し、資質を持った学生を募集している。具体的に、一般入学試験（前期一般入試、全学統一入試、後期一般入試、および大学入試センター利用試験方式）のほか、推薦入学（指定校推薦入学、併設高校推薦入学）、帰国生徒特別入試、外国人特別入試を定めている。		芝浦工業大学ホームページ 工学部・各学科のアドミッションポリシー http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/admission_policy/engineering.html 芝浦工業大学電子工学科ホームページ 教育の方針と特色 アドミッションポリシー http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/tokusyoku.html 一般入学試験要項 指定校推薦入学募集要項（工学部） 併設校推薦入学試験要項 帰国生徒特別入学試験要項 外国人特別入学試験要項
2.4(1)[2]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が学内外に開示されていますか？	○	本学HPおよび学科HP上でアドミッションポリシーを公開し、①一般入学試験要項の配布、②大学HP入試情報への掲出、③指定校などへの直接通知等で入試方法を開示している。さらに年2回開催されるオープンキャンパスでは参加する受験生に対して、直接要項の配布を行っている。		芝浦工業大学ホームページ 工学部・各学科のアドミッションポリシー http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/admission_policy/engineering.html 芝浦工業大学電子工学科ホームページ 教育の方針と特色 アドミッションポリシー http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/tokusyoku.html 芝浦工業大学 入試情報 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/ ※関係した入試情報の詳細は以下の通り 一般入試 前期日程 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/general_exam_first.html 一般入試 全学統一日程 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/general_exam_unified.html 一般入試 後期日程 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/general_exam_second.html 大学入試センター試験利用方式 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/center_exam.html 帰国生徒特別入学試験 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/returnee_exam.html 外国人特別入学試験 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/foreigner_exam.html
2.4(1)[3]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法に従って選抜が行われていますか？	○	一般入学試験（前期一般入試、全学統一入試、後期一般入試、および大学入試センター利用試験方式）のほか、特別選抜方法として推薦入学（工学部指定校推薦入学、併設高校推薦入学、など）、帰国生徒特別入試、外国人特別入試、学士入試および編入学入試が実施されている。		入学試験結果

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(2)	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められ、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の決定が行われていること。				
2.4(2)[1]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められていますか？	○	電子工学科では在籍する学生全てがJABEEプログラム対象となるため設定していない。		学修の手引（電子工学科、§1教育方針） ABEE説明会資料（教育プログラム概念）
2.4(2)[2]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法が当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	○	電子工学科では在籍する学生全てがJABEEプログラム対象となるため設定していない。		学修の手引（電子工学科、§1教育方針） ABEE説明会資料（教育プログラム概念）
2.4(2)[3]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の決定が行われていますか？	○	電子工学科では在籍する学生全てがJABEEプログラム対象となるため設定していない。		学修の手引（電子工学科、§1教育方針） ABEE説明会資料（教育プログラム概念）
2.4(3)	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それに従って履修生の編入が行われていること。				
2.4(3)[1]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められていますか？	○	学外からの編入方法として、学士入試および編入学入試を定め、本学編入学規程及び学科のルールに基づき、合否判定される。編入学前の単位の認定について、ルールに基づいて調査し、工学部教務委員会で認定される。		学士入試試験要項 編入学試験要項 芝浦工業大学編入学規程 電子工学科への編入学、学士入学等の学生の移籍に係わる方針及び単位認定に関して工学部教務委員会 単位認定作業のガイドライン
2.4(3)[2]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法が学内外に開示されていますか？	○	大学HP入試情報への掲出、学士入試および編入学入試要項の配布により開示している。単位認定の基本方針、移籍により電子工学科で履修できる条件について、本学電子工学科HPで開示されている。学科のルールについて、学科教職員に対してのみ学科内共有サーバで開示されている。単位認定の詳細について、工学部教務委員会のガイドラインが学内に開示されている。		芝浦工業大学 入試情報 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/ ※関係した入試情報の詳細は以下の通り 学士入試試験 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/bachelor_exam.html 編入学試験 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/transfer_exam.html 学士入試試験要項 編入学試験要項 マレーシア留学生編入学試験要項 電子工学科ホームページ 転部・転科および編入に関する履修条件 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/jabee/jabee_index2.html 学科内共有サーバ（学科内規） 工学部教務委員会 単位認定作業のガイドライン 第1102回教授会資料 マレーシアプログラム編入生の基礎科目の認定方法の改訂について
2.4(3)[3]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の編入が行われていますか？	○	2012年度HELPⅢの編入学生3名、2014年度MJHEP第1期生の編入学生1名について、具体的方法に従って単位を認定し、3年次に受け入れた。		2012年度マレーシア編入生単位認定案 第1201回工学部教授会資料（抜粋） マレーシア編入生単位認定 2014年度マレーシア編入生単位認定案 第1402回 工学部教授会資料（抜粋） マレーシア編入生単位認定
2.4(4)	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の異動が行われていること。				
2.4(4)[1]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められていますか？	○	転部・転科について、学修の手引に方法が定められている。さらに、基本方針、移籍により電子工学科で履修できる条件、単位認定について、学科のルールに定められている。基本方針は、JABEE認定学科または認定準備学科・コースからのみ、転部・転科での異動を受け入れる。受け入れは2年次のみとしている。		学修の手引 7.学籍（2）学籍の異動 転部・転科） 電子工学科への編入学、学士入学等の学生の移籍に係わる方針及び単位認定に関して
2.4(4)[2]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的な方法が関係する教員及び学生に開示されていますか？	○	学修の手引および本学HPに試験方法及び関連情報が開示されている。基本方針、移籍により電子工学科で履修できる条件について、本学電子工学科HPで開示されている。学科のルールについて、学科教職員に対してのみ学科内共有サーバで開示されている。		学修の手引 7.学籍（2）学籍の異動 転部・転科） 芝浦工業大学ホームページ キャンパスライフ 学生生活サポート - 手続きガイド 授業に関すること 転部転科したい http://www.shibaura-it.ac.jp/campuslife/guide.html 電子工学科ホームページ 転部・転科および編入に関する履修条件 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/jabee/jabee_index2.html 学科内共有サーバ（学科内規）

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(4)[3]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の異動が行われているか	○	異動の実績はまだない。将来、異動が行われる場合には、具体的方法に従って履修生の異動が行われる予定である。		
2.5	2.5 教育環境・学生支援				
2.5(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていること。				
2.5(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されていますか？	○	工学部の講義室は86室、演習室・実験室は、教員の研究室を含み131室ある。実習室・製図室は、各々12室、7室である。豊洲・大宮・芝浦の各校舎には、コンピュータ実習室、図書館（自習可）、食堂（生協）、休憩施設、フリースペース（自習・休憩可）が設置されている。授業や学生の自主学習を通し、学習・教育到達目標を達成するための環境が整備されている。		大学敷地面積明細 工学部のコンピュータ・ルームの施設内容 豊洲・大宮両キャンパスにおけるアメニティー 芝浦工業大学 図書館について SIT CAMPUS GUIDE 2010-2012
2.5(1)[2]	上記の施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？	○	中期的な財政の安定化実現を目指し、経常的な支出の削減や施設設備投資計画の選別を図っている。収入の中心の学生生徒等納付金が安定的に確保されており、支出の中心を占める人件費が適正な水準で推移している。日本私学振興・共済事業団調査による平均値（全国の医歯系を除く大学法人対象）と比較すると、人件費比率は同平均より低い数値で推移しており、財政基盤は安定している。		財務比率推移 消費支出推移
2.5(2)	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.5(2)[1]	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがありますか？	○	オフィシアワーを設け、さらに工学部学習サポート室を開設している。学習サポート室には基礎科目（数学・物理・化学・英語）の教員が中心に待機し、学生が常時利用できる。また、学科独自または大学共通で授業アンケートを実施し、学生の要望を収集し、学科会議等で検討する。		主要講義科目のシラバス（オフィシアワー） 他の科目のシラバスは検索システムから検索できる。 http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 工学部学習サポート室ホームページ http://kyoikukaihatsu.shibaura-it.ac.jp/support_top.html 1年生学科アンケート 4年生学科アンケート 授業アンケート結果
2.5(2)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていますか？	○	オフィシアワーについて、シラバスに記載している。学習サポート室の目的や使い方について大学HPに掲載されており、教員、職員及び学生に開示されている。また、学生の要望にも配慮することについてJABEE説明会資料に記載している。		主要講義科目のシラバス（オフィシアワー） ※他の科目のシラバスは検索システムから検索できる。 http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 工学部学習サポート室ホームページ http://kyoikukaihatsu.shibaura-it.ac.jp/support_top.html JABEE説明会資料（JABEE制度に関して）
2.5(2)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	○	学習サポート室利用状況より、学生利用の実態がある。学科1年生アンケート結果は分析してコメントを付け加えたものを学科HPで公開している。授業アンケート結果は各科目のシラバスから閲覧でき、分析結果をもとに学生教員双方の学習・教育改善に役立っている。		学習サポート室利用状況 1年生学科アンケート 電子工学科ホームページ 教育システム改善のためのアンケート調査 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/jabee/jabee_index4.html シラバスからの授業アンケートの閲覧 ※他の科目のシラバスは検索システムから検索できる。 http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
3	基準3 学習・教育到達目標の達成				
3(1)	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回事審時からの改善・変更	根拠資料
3(1) [1]	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていますか？	○	代表的講義科目、複数担当教員科目、及び卒業研究の評価に関わる資料を根拠資料に示す。シラバスに示した評価方法と評価基準に従い、評価を行っている。複数教員科目では共通の評価項目で評価している。電子工学ゼミナール及び卒業研究では、さらに具体的に到達目標を示した評価シートを用いて評価している。		主要講義科目のシラバス 主要講義科目の試験問題・答案 複数教員担当科目のシラバス 複数教員担当科目のガイダンス資料 複数教員担当科目の評価項目 複数教員担当科目の評価に関する資料（レポート等） 2015年度卒業研究 要項・評価基準・評価シート 卒業研究記録ノート 2015年度卒業研究成績表 ※他の科目のシラバスは検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
3(2)	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それに従って単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それに従って単位認定が行われていること。				
3(2) [1]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	○	本工学部学の単位として認定する制度を「工学部学外単位等認定制度規程」で定めており、学修の手引で学外単位認定制度として学生に周知している。具体的には、工学部教務委員会が単位認定の申請を受けて、シラバスの審査を含み共通学群または当該学科へ認定案の作成が依頼され、その結果が教務委員会が審議されて認定の可否が決定される。		工学部学外単位等認定制度規程 学修の手引 9.履修 (5)学外単位等認定制度について 工学部教務委員会 単位認定作業のガイドライン
3(2) [2]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	○	JABEE対応のプログラム以前には単位認定の実績はあるが、JABEE対応プログラムでの実績はまだない。学外英語検定 (TOEIC、TOEFL、英検1級) について、上記評価方法に従い、単位認定している。		第1002、1102、1202、1302、1402回 工学部教授会資料 (抜粋) 英語検定 (TOEIC・TOEFL等) の単位認定について
3(2) [3]	編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	○	「工学部学外単位等認定制度規程」に定め、工学部教務委員会が単位認定の申請を受けて、審査を行い認定の可否を決定する。学科においては、に示すように、授業内容が一致しているだけでなく、達成目標や評価方法および評価基準が明確であるか、本プログラムで定めた学習・教育到達目標に対応しているか、編入元のシラバスを精査して申請している。		工学部学外単位等認定制度規程 電子工学科への編入学、学士入学等の学生の移籍に係わる方針及び単位認定に関して
3(2) [4]	編入生等が編入前に取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	○	JADプログラムを修了したマレーシア留学生について、2012年4月1日に3名、2014年4月1日に1名、3年次に編入生として受け入れた。学科からの単位申請は学科主任、カリキュラム担当委員でシラバスを参照して認定案を作成し、教務委員会に申請した。教務委員会の審議により認定が決定され、教授会で報告された。		2012年度マレーシア編入生単位認定案 第1201回工学部教授会資料 (抜粋) マレーシア編入生単位認定 2014年度マレーシア編入生単位認定案 第1402回 工学部教授会資料 (抜粋) マレーシア編入生単位認定、英語検定 (TOEIC・TOEFL等) の単位認定について
3(3)	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それに従って評価が行われていること。				
3(3) [1]	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められていますか？	△	自己点検書の表2に学習・教育到達目標各項目の達成度の評価方法と評価基準を示している。複数教員担当科目および卒業研究について、共通の評価項目がある【T21】【T22】。各学習・教育到達目標についての達成度の総合的な評価は、各学習・教育到達目標ごとに設定された科目 (表4) を履修しその単位履修状況を記した成績通知書及びJABEE達成表・確認表により達成度を確認する【T07・J04】【T08・J05】。複数の学習・教育到達目標が割り当てられた科目の目標按分率はホームページ上で公開している【T23】。	【前回審査の指摘】 2つ以上の学習・教育到達目標を割り当てた科目の目標達成の割合の周知、評価方法の周知が不十分である。当該科目の目標の按分率は学生に非公開であり、多くは目標別の評価を行っておらず、「総合的に評価する」となっている。「総合的な評価」では、審査側から達成目標を達成していることを客観的に判断できない。 【改善】 入学年度別で、該当科目の目標の按分率を公表することにした。2016年度入学生から、新学習・教育到達目標に変更した。1科目1目標を基本とし、多くとも1科目2目標とした。	自己点検書 表2 【T21】 複数教員担当科目の評価項目 【T22】 卒業研究 要項・評価基準・評価シート 自己点検書 表4 【T07・J04】 成績通知書 (S☆gsot (ガソット) 上) ※【T07】はS☆gsot (ガソット) 上の画面、【J04】は全員分の成績通知書 【T08・J05】 JABEE達成表、確認表 (S☆gsot (ガソット) 上) 【T23】 学習・教育到達目標按分率 ※学習・教育到達目標按分率は下記の電子工学科ホームページで公開している。 電子工学科ホームページ 2010-2015年度 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/jabee/jabee_index1_10.html 電子工学科ホームページ 2016年度 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/jabee/jabee_index1_16.html

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(3)[2]	上記の評価方法と評価基準に従って評価が行われていますか？	△	複数教員担当科目および卒業研究について、【J10】【T24・J11】に示す共通評価シートによる評価を行っている。また、S☆gsot上で、成績通知書による単位取得状況、JABEE達成表・確認表により達成度および目標達成に必要な科目を確認できる【T07】【T08】。	(3(3)[1]と同じ)	【J10】複数教員担当科目の評価に関わる資料（レポート等） 【T24・J11】卒業研究成績表 【T07】成績通知書（S☆gsot（ガソット）上） 【T08】JABEE達成表、確認表（S☆gsot（ガソット）上）
3(4)	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。				
3(4)[1]	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していますか？	○	表2に示した学習・教育到達目標に対応する科目群科目や専門科目を履修するように卒業に必要な条件を設定している。卒業に必要な条件を満たした学生は全ての学習・教育到達目標を達成しており、従って卒業生は全員修了生となる。これらは【J04】【J05】により、卒業と目標達成を確認できる。	(3(3)[1]と同じ)	自己点検書 表2 【J04】成績通知書 【J05】JABEE達成表、確認表
3(5)	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。				
3(6)[1]	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていますか？	○	表2に示すように、学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけられるようなカリキュラムとなっている。	(3(3)[1]と同じ)	自己点検書 表2
4	基準4 教育改善				
4.1	4.1 教育点検				
4.1(1)	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4.1(1)[1]	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがありますか？	△	基準1～3に基づく達成度の評価や教育手法等について、元々ある規定・内規に加え【T25】、2015年10月に学科内委員会の規定・細則を策定、所轄事項、構成員の役割を定めた【T26】【T27】。実際には2015年4月より、前例して本規定と細則に従って活動している。学科全体のPDCA活動は学科会議後に実施されるJABEE会議で統括・推進・点検している。活動計画と点検はスケジュール表ベースで行い、PDCA状況や点検状況の見える化を図った【T28】。	〔前回審査の指摘〕学科内委員会について、権限を明記しない規程であったり、PDCAのエビデンスが議事録のみでは不十分である。規程には権限まで含め、また第三者に見せることを前提としたPDCAの「見える化」が必要である。 〔改善〕2015年度より、学科全体のPDCA活動はJABEE会議で推進することとし、スケジュール表ベースで活動点検を行い、PDCA状況や点検状況の見える化を図った。2015年10月、各学科内委員会について、所轄事項、構成員の役割を明記した規定および細則を策定した。	【T25】電子工学科規程・内規 【T26】2015年度第6回学科会議議事録 【T27】学科内委員会の規定・細則（電子工学科内委員会及び担当、JABEE会議、カリキュラム検討委員会、実験・実習及び機器・施設検討委員会） 【T28】2015年度電子工学科JABEEスケジュールと点検表
4.1(1)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	○	学科内共有サーバに規定・細則・スケジュール表を保存しており、電子ファイルで確認することもできる【T29】。		【T29】学科内共有サーバ（学科内規）
4.1(1)[3]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	△	【T28】に示すように、毎月開催されるJABEE会議で全体の点検活動を行っている。また、各議事録【T17】【T30】に示すように、定期的な活動により点検・改善がなされている。		【T28】2015年度電子工学科JABEEスケジュールと点検表 【T17】カリキュラム検討委員会議事録 【T30】電子工学科成績分布及び試験問題の教員間相互参照に関する打ち合わせ議事録
4.1(2)	その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。				
4.1(2)[1]	教育点検の仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含んでいますか？	○	1・4年生に対して教育改善に関するアンケートを行う内規を定めている。内規には定めていないが、就職担当が企業対象アンケートを行い、さらに、クラス担任・教育支援担当教員が定期的に学生と面談を行っている。これらは学科会議で報告・対応する。さらに、毎年実施する父母懇談会で、父母からの意見や要望を聴取し、必要に応じクラス担任に報告している。		電子工学科内規（電子工学科教育改善に関するアンケート内規） 1年生学科アンケート 4年生学科アンケート 企業対象アンケート クラス担任・教育支援担当教員面談結果 父母懇談資料（後援会だよりしぼうら第21号）
4.1(2)[2]	教育点検の仕組みは、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていますか？	○	点検結果について、カリキュラム検討委員会等の学科内委員会での改善案を審議し、学科会議へ提案する。学科会議ではその改善案を審議し、さらに必要に応じ内規の改廃についても審議することができる。さらに、2013年度より、学科全体の教育活動について、自己点検を行うことになっている。		電子工学科内規（電子工学科授業内容の点検・改善に関する内規、電子工学科教育改善に関するアンケート内規） 工学部学科等自己点検書作成の依頼
4.1(3)	その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。				
4.1(3)[1]	教育点検の仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できますか？	○	学科内委員会（カリキュラム検討委員会、実習・実験及び施設・設備検討委員会、JABEE会議）および学科会議の議事録は電子工学科全教員に配布されると共に、学科内共有サーバで閲覧できる。学科全体の自己点検結果は、本学HP（大学自己点検評価）で閲覧できる。		学科内共有サーバ（学科会議等議事録） 芝浦工業大学ホームページ 大学案内 評価に関して 自己点検評価（各年度）大学自己点検評価 工学部・各学科・学群点検・評価報告書 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/2013_inspection_engineering.html
4.2	4.2 継続的改善				
4.2	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。				
4.2[1]	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがありますか？	△	【T31】に示すように、所轄事項を明記した工学部全体のPDCAサイクルが存在する。JABEEの仕組み自体を継続的に点検するシステムとしてJABEE推進委員会がある。通常のサイクルの他、学科等の組織を超え、かつ、解決策が見えにくい課題に限って課題抽出を行うフローが2013年度に追加されており、工学部長室より改善要請を行うことができる。2015年度より、学科等個別自己点検書の点検をJABEE推進委員会に移行し、より有効性を高めた。	〔前回審査の指摘〕工学部組織による学科のJABEE活動の点検の仕組みが不十分である。認定学科の審査時に指摘されていたにも関わらず、今回の審査でも改善が見られない。学科内PDCAサイクルと同様、規程には権限まで含め、第三者に見せることを前提としたPDCAとする。 〔改善〕工学部JABEE推進委員会において工学部PDCA体制の整備を行った。本項目に関して、学科JABEE活動の点検を含む工学部全体の体制フローの可視化、JABEEの仕組み自体を継続的に点検するシステムの改善を行った。	【T31】工学部PDCAサイクル
4.2[2]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？		工学部全体の活動について、自己点検・評価報告書に示すように自己点検を行った【T32】。学科の活動について、JABEE自己点検書フォーマットを用いた学科等個別自己点検書を作成し、点検を受けた【T33】。これらの報告書は本学HP上で公開されている【T34】。工学部JABEE委員会の活動について、各学科で解決しにくい問題の改善や情報の共有を行った【T35】。	4.2[1]と同じ	【T32】芝浦工業大学ホームページ 自己点検・評価報告書（2014年度、2015年度） 2014年度 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/mfmbut000007se5-att/2014_valuation_reports.pdf 2015年度 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/mfmbut000007v1-att/2015_evaluation_reports.pdf 【T33】芝浦工業大学ホームページ 工学部電子工学科 点検・評価報告書

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
		△			2014年度 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/mfphut0000007se5-att/2014_valuation_g.pdf 2015年度 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/mfphut000000fvil-att/2015_evaluation_g.pdf 【T34】芝浦工業大学ホームページ 大学案内 自己点検評価（各年度） http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/ 【T35】工学部JABEE推進委員会議事録